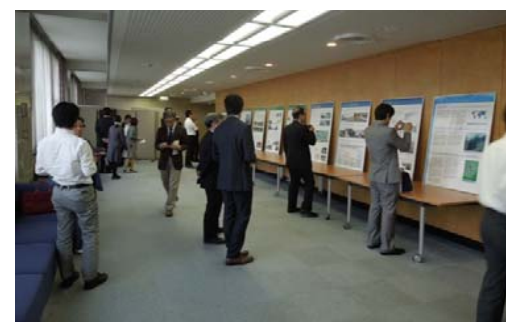


シンポジウム概要

■ 平成24年10月11日(木) 13:00~17:00

■ 主催:国土交通省 (世界銀行協賛)

■ 参加者164名 (うち、自治体26名)



国際シンポジウム

「これからの河川環境を考える-自然環境の保全・再生の価値-」を開催しました

国土交通省では、河川環境の改善、近年では特に河川における自然環境や生物多様性の保全・再生に積極的に取り組んでいます。

また、国際的にも生物多様性への関心は高まっており、世界銀行では、国民経済計算に生物多様性を組み込むための取り組みを進めています。

今回、世界銀行のご協力をいただき、自然環境の保全・再生の価値とは何か、また、これからの河川環境をどう考えるべきかについて議論する国際シンポジウムを開催しました。

世界銀行開発研究グループ
リード・エコノミスト
カーク・ハミルトン 氏

『自然資本の価値を評価すべき』



現地視察(H24.10.10)

【参加者】

- ・ドイツリューステット村
ユルゲン・ヘルペル 村長
- ・三井住友信託銀行(株)経営企画部
金井CSR担当部長

【視察箇所】

- 渡良瀬遊水地
治水と環境の両立、H24.7ラムサール湿地登録
- 首都圏外郭放水路
日本の最新技術による巨大地下洪水処理施設
- 野田市江川地区
関東エコロジカル・ネットワークの先進的取組地域



エルベ川流域
ドイツ
リューステット村長
ユルゲン・ヘルペル 氏



『地域住民や河川管理者の 協力が不可欠』

円山川流域
兵庫県豊岡市長
中貝 宗治 氏



『コウノリの野生復帰により 環境と地域経済が両立』



【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL 03-5253-8447



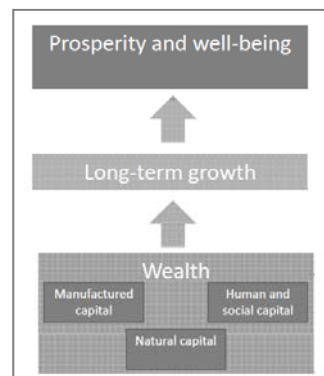
平成24年10月
国土交通省 水管理・国土保全局

基調講演『持続可能な発展に向けた生態系サービスと 生物多様性の価値評価の取り組み カーク・ハミルトン氏（世界銀行開発研究グループ リードエコノミスト）

・現在、世界では国内総生産（GDP）に基づく経済評価が主流であり、自然資本に関する会計を行っている国は多くない。

・自然環境の保全には**メリット・価値**がある。
例えば、**レクリエーション、エコツーリズム、**
下流への治水効果、次世代への継承など。

・こうした**自然資本がもたらす様々な価値を理解し、**
適切に評価していくべき。



取組報告1『日本の河川環境行政の取り組み』 金尾 健司（国土交通省 河川環境課長）

・河川は元来、私達日本人の生活・文化の一部として身近な存在。
急速な経済発展の代償として、**豊かな河川環境を喪失**。

・昭和40年代以降、水質改善や河川の親水性の回復を推進。

・平成に入ってから、河川における**自然環境の保全・再生**が重要なテーマ。
平成9年の河川法改正、**多自然川づくり、釧路川の再蛇行化などの**
自然再生事業の推進等。



取組報告2『人と自然の共生 ―小さな世界都市・豊岡―』 中貝 宗治（豊岡市長）

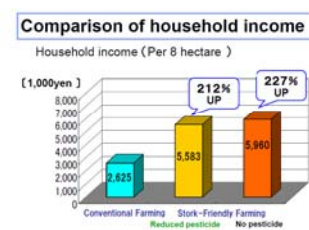
・豊岡市にはかつて、人と**コウノトリ**が共存する豊かな自然環境があった。
開発や農業等の影響で、**1971年に日本の野外でコウノトリ絶滅**。

・1965年からコウノトリの人工飼育が始まり、**野生復帰の取り組みは国際的にも高い評価**。

・コウノトリを野生復帰させるため、「コウノトリ育む農法」
を展開し、円山川では、国が湿地を再生。

・コウノトリ育む農法により**農家所得は2倍以上**。観光客
の増加は年間10億円の経済効果。また、環境企業も
誘致。**環境と地域経済が共鳴する「環境経済」を実践**。

・子ども達も水田に帰ってきた。
環境保全や社会貢献に対する意識も高くなり、
豊岡では**次世代を担う賢い子ども達が育っている**。



パネルディスカッション



<リュージュテット村 ユルゲン・ヘルペル 村長>

・エルベ川河畔で、コウノトリの生息環境の保全を
エコツーリズムや若い世代の雇用創出につなげている。
・多くの人々との**パートナーシップや次世代への継承**が大事。

<千葉県野田市 根本市長>

・河川は生態系に**不可欠な要素**。自治体の取り組みが葡萄の「実」なら、河
川はそれをつなぐ「幹」のようなもの。
・人口減少や少子高齢化で**地域の選別**が始まる。
市民の判断材料は、今までは「利便性」。これからは「安全・安心（治
水）」や「**自然環境**」。



<国土交通省水管理・国土保全局 足立局長>

・国交省は、河川環境を保全・再生していくため、様々な努力を積み重
ね、**生態学と河川工学が両立する技術**を磨いてきた。
・河川環境の保全には、**NPOや市民の協力**が不可欠。

<三井住友信託銀行（株）経営企画部 金井CSR担当部長>

・企業の**自然資本への負荷や取組を評価した投資・融資商品**を開発し提供。
・不動産価値と自然資本評価のギャップに着目し、**流域の環境保全に貢献す**
る仕組みも検討。地域で**自然保護活動を担うNPOの育成**が非常に重要。



<兵庫県豊岡市 中貝市長>

・人と自然が共生していた時代を知っている**高齢者の活躍**が
大事。自然体験に乏しい中間世代や子どもたちも「野生復帰」を。
・河川における**自然再生は、地域と一体となって取り組んでほしい**。

<北海道大学 中村 教授(コーディネーター)>

・河川は生態系の**軸**であり、非常に重要な要素。
・生態系の健全性だけを考えていては、生物多様性の保全は進まない。
社会・経済的視点が必要。**実生活との関連づけ**が不可欠。
・生態系サービスと結びつけて、生物多様性保全を進めることは世界の
潮流。そこに**いかにビジネスを絡めるか**が重要。

